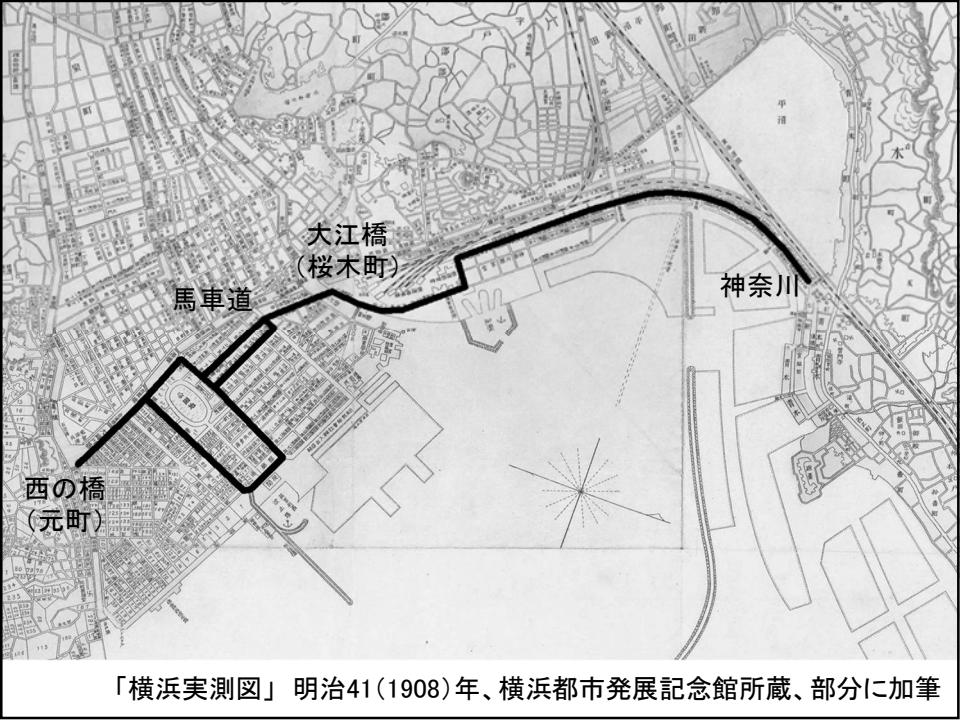


| 日本における軌道交通の発達の流れ                              |                  |                      |                        |                 |
|-----------------------------------------------|------------------|----------------------|------------------------|-----------------|
|                                               | ①国土交通<br>(長距離)   | ②地方交通<br>(中距離)       | ③都市郊外交通<br>(近距離)       | ④都市内交通<br>(近距離) |
| 明治前半<br>↓                                     | 官設鉄道<br>私設鉄道     |                      | (馬車鉄道)                 |                 |
| 明治後半<br>大正<br>↓                               | 国有鉄道             | 国有鉄道<br>軽便鉄道(私鉄)     | 郊外電車(私鉄)<br>院線電車       | 市内路面電車<br>(私鉄)  |
| 大正<br>昭和戦前<br>↓                               | 国有鉄道(省線)         | 国有鉄道(省線)<br>地方鉄道(私鉄) | 省線電車<br>高速郊外電車<br>(私鉄) | 市電              |
| 昭和戦後<br>高度成長<br>↓                             | 国鉄(特急・急行)<br>新幹線 | 国鉄                   | 国電<br>大手私鉄             | 市電<br>地下鉄       |
| 平成<br>↓                                       | JR(特急)<br>新幹線    | JR<br>第三セクター         | JR<br>大手民鉄             | 地下鉄             |
| ■ 汽車(蒸気鉄道) ■ 路面電車(軌道) ■ 高速電気鉄道 ■ 気動車(ディーゼルカー) |                  |                      |                        |                 |



(1) 都市内交通としての路面電車の誕生

- 路面電車(電気軌道)の登場
  - \* 道路に敷設したレールを電気で走る乗り物
  - \* 都市内交通機関として主な都市に開通 → 「チンチン電車」
  - 【京都】明治28(1895)年 【名古屋】明治31(1898)年
  - 【東京】 【大阪】明治36(1903)年 【横浜】明治37(1904)年
  - 【神戸】明治43(1910)年 【福岡】明治43(1910)年
  - \* 寺社や温泉地でも開通(川崎・江ノ島・箱根・別府など)
- 横浜電気鉄道の開通
  - \* 関内(開港場)周辺に線路を敷設、市内路面電車の営業開始
  - 明治32(1899)年：軌道敷設の特許を申請(翌年、特許を取得)
  - 明治35(1902)年：横浜電気鉄道株式会社創立
  - 明治37(1904)年：[第1期線] 神奈川-大江橋(桜木町)開通
  - 明治38(1905)年：[第2期線] 大江橋-西の橋(元町)、税関線開通

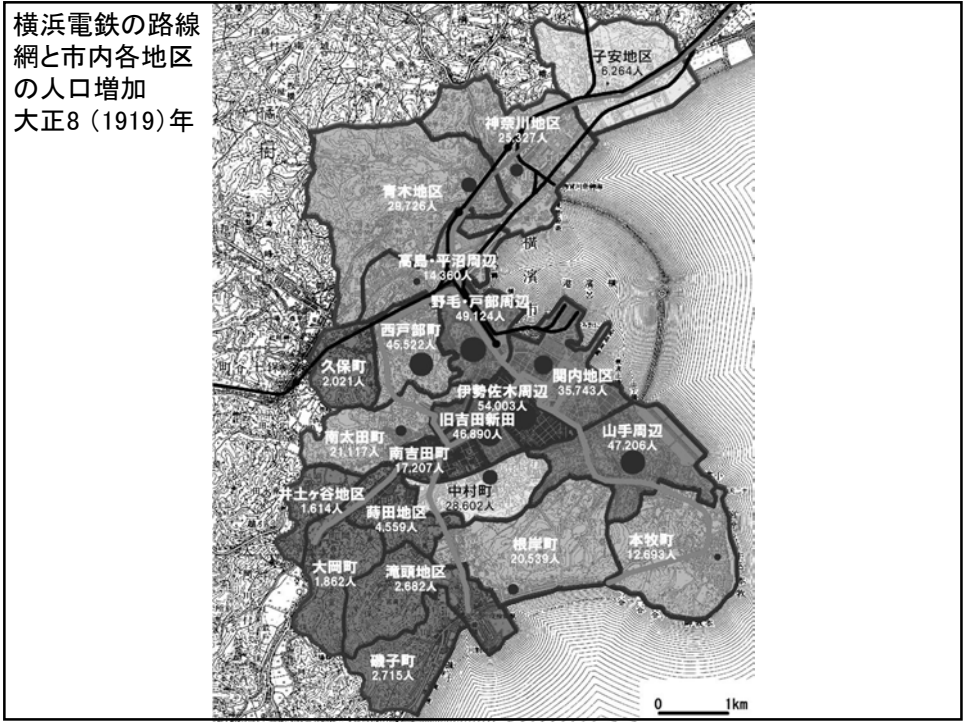
(2) 都市の拡大と郊外へ伸びる路面電車

- 横浜市域の拡張(=市街地の膨張)
  - 明治22(1889)年：横浜市の成立(関内および元町・伊勢佐木町・野毛・桜木町など)
  - 同34(1901)年：第1次市域拡張(神奈川・本牧・根岸など)
  - 同44(1911)年：第2次 “ (子安・西戸部・磯子・弘明寺など)
- 横浜電気鉄道の郊外延伸
  - \* 郊外路線の建設 ← 市域の拡張と連動
  - 明治44(1911)～大正3(1914)年：
    - ①本牧方面 ②関外・滝頭方面 ③弘明寺方面 ④西戸部方面
- 都市間(郊外)での路面電車の開通
  - 明治38(1905)年：京浜電気鉄道(品川-神奈川)全通
  - \* 都市間(郊外区間)専用の路面電車 → 後に大型化・高速化(現在の大手私鉄の前身)



### (3)「横浜市電」の誕生

- 横浜電鉄の経営悪化  
横浜市外への路線拡張計画  
\* 滝頭から金沢・逗子方面へ、弘明寺から鎌倉方面へ  
→ 第一次大戦中の物価高騰による経営難  
→ 運賃値上げの申請、従業員ストライキの頻発  
→ 市民の反発
- 路面電車は水道・電気・ガスなどと同じく都市での生活に不可欠の重要な社会インフラ → 「私企業の運営に任せず公営化すべき」という考え方が主流に
- 市内路面電車の市営化  
大正10(1921)年：横浜市が横浜電気鉄道を買収  
\* 電気局を設置し市内路面電車の運営開始 → 「横浜市電」
- 大阪・東京・神戸・京都・名古屋などでも「市電」誕生へ

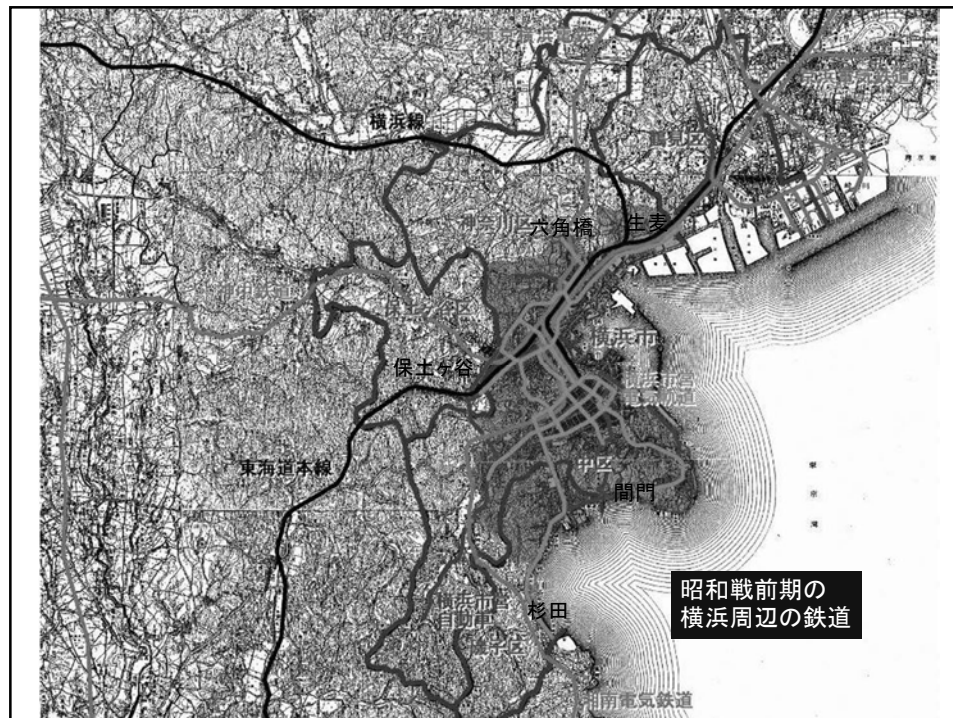


#### (4) 震災復興による横浜市電の路線拡張

- 関東大震災（大正12=1923年）
  - \* 横浜駅、桜木町駅の倒壊・焼失
  - \* 市電の全線不通。車両約150両のうち約100両が破損・焼失
- 「震災復興計画」＝街路・区画整理・公園・港湾・運河・河川
- 横浜市電の震災復興事業（昭和2～5=1927～30年）
  - \* 中心部の街路拡幅と線路移築・新設（尾上町・本町通りなど）
  - \* 郊外線の新設（生麦・六角橋・磯子・杉田・保土ヶ谷方面）
  - 路線キロ数：約20kmから約46kmに拡張
- 市営バスの営業開始（昭和3=1928年）
  - \* 横浜駅・桜木町駅を起点に丘陵地や郊外へ（根岸・三ツ沢・日野・鶴見方面など）
  - \* 市電の路線網を補完
- 横浜駅の移転（昭和3=1928年）
  - \* 現在地へ（三代目）
  - \* 高速郊外電車（私鉄）の集中＝東横・京浜・湘南・神中

#### (5) 横浜市電の華やかな時代

- ライバル交通機関の登場
  - \* バス、タクシー、郊外電車（私鉄）の発達 → 市電の乗客減
  - \* 日本全体の深刻な経済不況 → 市電（電気局）の経営を直撃
- さまざまな集客・増収事業の展開
  - 昭和5（1930）年：「市電ニュース」の発行開始
  - 昭和6（1931）年～：海水浴客のための割引連絡切符の発売。潮干狩り大会の開催。納涼電車（夕涼み電車）の運転
  - 昭和9（1934）年：女性車掌の採用
  - 昭和10（1935）年：復興博覧会の会場輸送と花電車運転
  - 昭和11（1936）年：「ロマンスカー」の導入 など
  - 昭和10（1935）年前後に市電は最も華やかな時代に



#### (6) 戦争の時代から市電の最盛期へ

- 戦時体制下の活況
  - 軍需産業の活発化（経済状況の好転）→ 市電の乗客数は急増
  - 昭和15（1940）年：市電の急行運転（ラッシュ対策、電力節約）
- 戦争と市電
  - 昭和19（1944）年：生麦-鶴見の線路延長（工場動員輸送の強化）
  - 昭和20（1945）年：横浜大空襲
  - 約200車両のうち約40車両が被災
- 「市民の足」市電の最盛期
  - 昭和21（1946）年：電気局から交通局に
  - 昭和22（1947）年：戦災からの復旧完了
  - 昭和29～31（1954～56）年：井土ヶ谷線・根岸線の開通
  - \* 路線総延長51.8km、停留場135所、車両181両 → 史上最大化
  - \* 昭和30年代、利用者は1日約30万人で安定

(7) 高度経済成長と都市交通の転換

■ 都市交通機関としての限界

(1) 高度成長期：自動車の増大→輸送効率と経営の悪化

(2) 国鉄根岸線の開通（国電の都心部貫通と南部延伸）  
\* 昭和39(1964)年：(横浜-)桜木町-磯子開通(洋光台・大船へ)

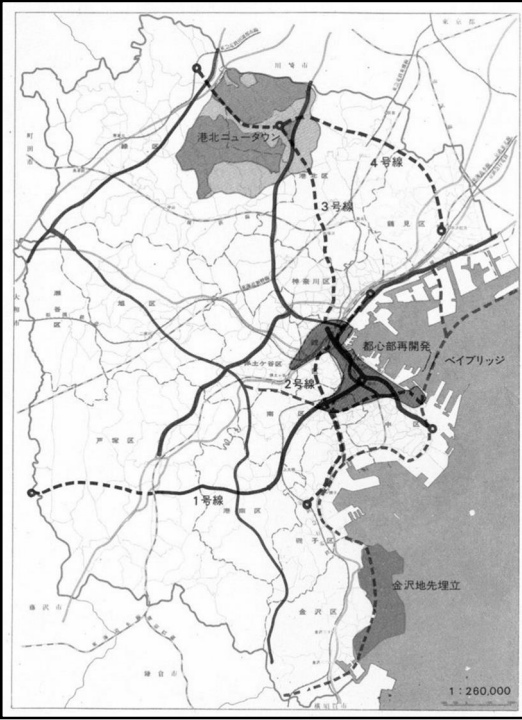
(3) 広大な市域全体の市街地化（首都圏のベッドタウン化）  
\* 市電の路線網は旧市域のみ。路面電車では広域に対応不可

■ 市電廃止：昭和41(1966)年決定→同47(1972)年までに順次廃止

■ 市営高速鉄道(地下鉄)の開通（市域全体に対応可）  
\* 昭和47(1972)年：上大岡-伊勢佐木長者町開通  
→以後、横浜駅・新横浜・港北NT、港南・戸塚区方面へ延伸  
\* 平成11(1999)年：湘南台-あざみ野全通(ブルーライン)

■ 平成16(2004)年：みなとみらい線(横浜-元町中華街)開通

★横浜の高速鉄道網は横浜駅一極集中化 →市電全廃で顕著に

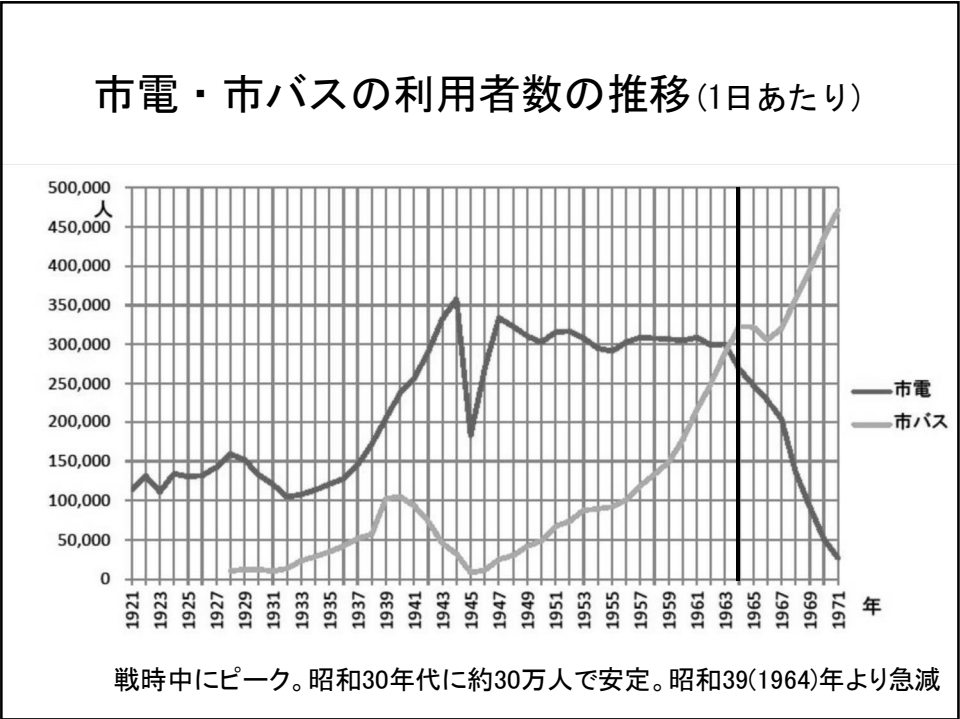


「六大事業」

昭和40(1965)年：構想発表  
同44(1969)年：横浜国際港  
都建設中期計画に明示

①都心部の再開発  
（→みなとみらい21）  
②金沢地先の埋立  
③港北ニュータウン  
④都市高速鉄道  
（→市営地下鉄）  
⑤都市高速道路網  
（→首都高速道路）  
⑥横浜ベイブリッジ

六大事業地図  
『市民の生活図集』横浜市、  
昭和45(1970)年より



市域の拡張と都市内交通の変遷

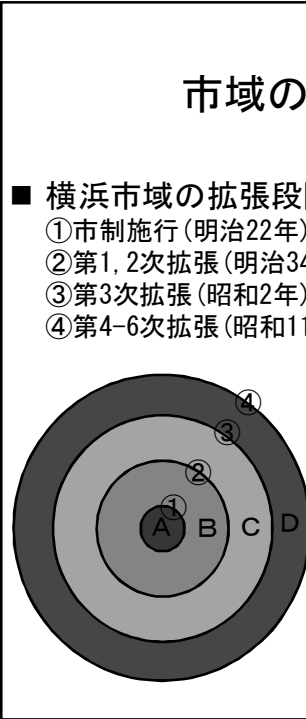
■ 横浜市域の拡張段階

①市制施行(明治22年)～：関内・元町・伊勢佐木・野毛など

②第1,2次拡張(明治34,44年)～：子安・神奈川・本牧・根岸・磯子などへ

③第3次拡張(昭和2年)～：鶴見・小机・保土ヶ谷・上大岡・杉田などへ

④第4-6次拡張(昭和11,12,14年)～：現在の市域が成立



|                   | A域          | B域            | C域 | D域 |
|-------------------|-------------|---------------|----|----|
| ①明治前期             | (馬車等)       |               |    |    |
| ②明治後期<br>～大正期     | ←路面電車→      |               |    |    |
| ③昭和戦前期            | ←路面電車(市電)→  | * * * *       |    |    |
|                   | * * * *     | ←郊外電車(私鉄)→    |    |    |
| ④昭和戦中期<br>～1960年代 | ←路面電車(市電)→  | * * * * *     |    |    |
|                   | * * * *     | ←国電・郊外電車(私鉄)→ |    |    |
| ⑤1970年代～          | ←国電・私鉄・地下鉄→ |               |    |    |